

# 南ユタ大学短期プログラム報告書

函館校 地域協働専攻・国際協働グループ2年 小川凌

私は2017年8月28日から9月14日までの約3週間、アメリカ合衆国ユタ州シーダーシティにある南ユタ大学に短期留学をしに行きました。このプログラムでは、3週間のプログラムに参加することにより集中的に語学力を磨くとともに、異文化を体験し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的としています。私は、この短期プログラムを通して様々なことを学び、多くの思い出を作ることができました。その中で自分が学んだことや、感じたことなどを報告したいと思います。

まず始めに、アメリカに行くまでに自分が日本でやらなければいけないことを説明します。一つ目はパスポートの用意です。パスポートの用意には時間がかかります。一人暮らしの人は手間がかかると感じました。郵送で実家に書類を送り、署名をして、また郵送してもらったり、戸籍謄本を取り寄せてもらったりしました。こういう点で一人暮らしというのは面倒です。また、申請してから2週間ほど経たないとパスポートを受取できないので、説明を受けたら早急に取りかかることをおすすめします。ESTAの申請というネット上での準備もパスポートがないとできないので注意です。二つ目はクレジットカードです。アメリカではクレジットカードが非常に役立ちます。必ずというわけではないですが、持っているとうれしく感じます。これについても作って受け取るまでに時間がかかるので早めに作った方が良いでしょう。加えて、作るならVISAかMaster Cardを作るのがいいと思います。大雑把ですがこれらが出発前の準備で私が重要に感じたことです。

次に出発からの体験を書きたいと思います。私たちは、新千歳空港から韓国の仁川空港に乗り換え、そこからラスベガスのマッカラン空港に到着という道でした。仁川空港からマッカラン空港までの飛行機が非常に長いので暇つぶしできるものを持って行くなどした方が良いでしょう。アメリカに着くと、まず気温に圧倒されました。非常に暑いので持って行く服は、Tシャツ5枚程度とパーカーなどの上着を一枚持って行くだけで十分だと思います。そこから車で3時間ほどかけ、南ユタ大学に着きました。そこで初めてホームステイファミリーに会いました。私達がホームステイファミリーの情報をもらったのはアメリカに着いてからでした。自分としては、ホームステイファミリーの情報をアメリカに行く前に伝えてほしいと考えます。ホームステイファミリーに買っていくお

土産などを考えるときに情報があれば考えやすいことや、話す内容なども考えていくことができるということがあるからです。これが改善してほしい唯一の点です。ここから、留学がスタートしました。授業では、午前が ESL クラスという教育大の留学生と南ユタ大学の教師と授業でした。この授業では、ゲーム感覚で英語の発音や文法を学んだり、語彙力を高めました。後半の ESL クラスでは、他の国から来ている留学生と授業を受け、プレゼンテーションなどをしました。個人的に最初の方から他の留学生との交流できる機会を設けてほしいと感じました。午後には南ユタ大学の学生にアンケートを取ったり、学内を見て回ったりなどのアクティビティが多かったです。私はこの午後のアクティビティのおかげで、外国人と話すのが一気に楽しくなりました。英語が通じなくても、それを一生懸命伝えようとするのが自分の勉強になっていると感じ、さらに楽しく感じました。他にも、ブライスキャニオンに行ったり、Red festival という祭りに行き、とても充実していました。また、今回のプログラムではプレゼンテーションが多かったです。小学生や大学生、ネイティブアメリカンの方々に向けたもので、主に日本の文化を知ってもらおうという目的のものでした。

次に生活面についてです。本プログラムではホームステイをします。ホームステイファミリーの環境などは人それぞれ違いますが、他の人たちも楽しくやっていたようでした。私のホームステイファミリーは父、母、子供三人の家庭でした。ホームステイしたての頃は両親が優しく接してくれましたが、なかなか子供と打ち解け合うことができず苦労していました。しかし学校から帰宅し、ホームステイファミリーと活動をしていくうちに徐々に慣れていきました。ホームステイファミリーとの交流が一番の不安要素でしたが、絶対に仲良くなれると思います。私はホームステイファミリーに様々なところに連れて行ってもらいました。丘の上に有る公園で行われたフェスに行ったり、湖に行って泳いだりしたことがホストファミリーとの思い出です。このようにホストファミリーと関わる時間が非常に多いので、自ずと打ち解けられました。しかし、やはり言語の壁というものは存在しています。会話の中で聞き取れない単語があったり、何を言っているのかが全く分からない時がありました。そんなときは恥ずかしながら、「もう一度お願いします」などの言葉を言えば相手は優しくゆっくり応えてくれます。私は英語の上達的手段としてただ勉強するだけでなく、英語話者と話すことによって上達するという手段を学びました。

私は今回の留学が初の海外でした。楽しみという感情もありながら、大半は不安でした。この大学にはこれから初海外で留学をするという人が多いと思います。この留学を通して私は在学中にもう一度海外へ行きたいと思いました。自分

はアメリカに興味があったので今回このプログラムに参加しました。少しでも興味があればその国に行くべきであると考えます。今やりたいことが無くても、海外へ行けばその国についてもっと知りたくなり、勉強の幅も広がると思います。また、違う国の人と交流するということが、話すことの楽しさをこの留学を通して学びました。私にとってこのように感じた留学でした。



ブライスカニオンでの集合写真



ブライスカニオンの絶景